

2023年度 第1回教育課程編成委員会 議事録

日時： 2023年7月12日（水） 15:00～16:15
場所： 愛仁会看護助産専門学校 2階会議室
委員： 公益社団法人大阪府看護協会 会長 弘川 摩子（御欠席）
Office Kyo-shien 代表 池西 静江
社会医療法人愛仁会 カーム尼崎健診プラザ 所長 松森 良信
社会医療法人愛仁会 愛仁会本部 看護担当特任理事 増山 路子（欠席）
愛仁会看護助産専門学校 学校長 清水 富男
愛仁会看護助産専門学校 副学校長 木村 幸子
愛仁会看護助産専門学校 看護学科 教育主事 藤尾 泰子、増本 綾子、小林 理絵
愛仁会看護助産専門学校 助産学科 教育主事 大石 有香
愛仁会看護助産専門学校 事務部長 澤崎 隆志
愛仁会看護助産専門学校 事務 川口 璃子（書記）

議事次第

1. 学校長挨拶
2. 出席委員の紹介
3. 教育課程編成委員会の設置趣旨説明
4. 第1回テーマ「2022年度教育運営評価とヘルスプロモーション実習報告」
 - ・木村副学校長より 2022年度の学生状況について説明を行った。
 - 在籍者数および学籍推移
 - 看護師国家試験合格状況
 - 進路状況
 - 学生状況
 - ・小林教育主事より 2022年度の教育実施状況について説明を行った。
 - ①臨床推論を用いた、考える力の強化
 - 「看護形態機能学」解剖生理学と日常生活動作を繋ぐ、「病態と治療」病態と治療を看護に繋ぐ科目設定を行い、医師の講義後に教員が講義を行った。
 - 学生のアンケート結果より
講師の講義後教員の講義を聞いて理解につながったか
→「看護形態機能学」71%、「病態と治療」58%が「理解につながった」と回答
臨地実習で生活者として対象理解する際に教員の講義役立ったか
→97%が「役立った」と回答
 - 1年次の看護過程の展開方法を教授することに加えてタナーの臨床判断モデルの4つのフェーズ「気づく力」に着目し、気づき力を強化することに重きをおき、また自己を省察できるようにリフレクションも行った。今後のカリキュラムでは、2年次に各領域別の看護を学び、3年次には「気づく力」を活かして臨床推論に繋げたい。

②国家試験合格に向けた知識の定着化、2021年度新入生から電子テキストの導入

【3年生】

- ・1日2問問題の提示
- ・模擬試験を7回実施
- ・国家試験模擬試験結果の分析と課題克服
- ・ゼミの実施

【2年生】

- ・国家試験対策委員と連携し問題提示
- ・低学年模擬試験を4回実施
- ・各領域別講義での事例展開

【1年生】

- ・夏季期休暇中、3年生から1年生へ解剖生理学ゼミを実施
- ・終講試験再試験者への学習サポート
- ・解剖生理・病態生理学模擬試験実施
- ・入学前基礎学力強化
- ・国家試験対策サポートシステムの導入
- ・1年次からの個別チューター制を実施
- ・1クラス40名での授業を再開

③地域での生活者を理解するための取り組み

- ・授業の中で人々の暮らしを理解するため、1年次「地域と看護」でのフィールドワークを実施した。

【主なフィールドワーク場所】

不登校の子どもたちと遊ぼう、フリースクールサポーター（吹田市）、子ども食堂（あかね食堂）、少年野球チームのお手伝い（高槻市）、高齢者いきいきサロン

- ・特別教育活動(SDGs)での地域貢献

【主なテーマ】

子ども食堂ボランティア（お弁当作り）、ジェンダーを知り向き合うことで多様な生き方やありかたを尊重した社会を目指す（ジェンダーカルタを作成）、傘のリサイクル（高槻病院・リハビリテーション病院の玄関にレンタル傘設置）、ペットボトルキャップ・文房具・ぬいぐるみ・コンタクトレンズケース・ベルマーク等の収集

④臨地実習での学び

ほとんどの実習を臨地で行うことができた。今後、パフォーマンス評価を行っていく。

<質疑応答・意見交換>

（委員）医師は基礎的な解剖生理だけでなく、更に専門的な病態生理も教えており、学生にとって理解は難しいと思われる。6割は「理解につながった」ので良い結果である。

（委員）いかに医師から教員へ講義をつなぐことが大事であるかがわかる。

（学校）2年生「成人援助論」で疾患を持った患者の看護を学び、それを教員が事例でつなぐ授業があるので、2年生になって最終的に理解につながれば良い。

(委員) 他校での教員による解剖生理を病態につなげる授業では、学生の理解度が高く、教員の評価が高いと思われたが、2年生の模擬試験での解剖生理学の分野の点数が悪かったので評価が難しい。

(委員) 解剖生理学は理解につながると応用が利くが、年々難しくなっている。1年次から国家試験対策をしており、素晴らしい。

・増本教育主事より下記ヘルスプロモーション実習について説明を行った。

➤実習構築

➤実習目的・目標

➤実習場所

老年：老人福祉センター、ディケア

精神：日中活動支援、就労支援、放課後ディサービス、大阪府立支援学校

次世代育成：子育て支援センター、民間学童保育室、高槻市立の小中学校

成人期：愛仁会総合健康センター、大学（平安女学院大学）、

企業（明治、コニカミノルタ、太陽ファルマテック）

➤実習内容

➤学生の反応

- ・産業保健師のおかげで健康でいられるのだと感じた。一次予防二次予防が工場で感じられた。
- ・就労支援施設がどのような場所か想像がつかなかったが、利用者さんや施設の方とお話をするこ
とで、この施設の役割や何をを目指しているのか学ぶことができた。
- ・健診は今後も継続して来てもらうことが大切なので、利用者に意欲を促す関わりが大事と学んだ。

➤施設の反応

- ・学生に何を教えたらいいいのかわからなかったが、自分たちが普段取り組んでいることをまとめる
ことで、意識していなかったことが明確になった。
- ・カンファレンスで学生の気づきを聞き、自分たちの理念が伝わっていると感じた。上手に普段の
子育てについてインタビューしていて、看護学生らしさを感じた。

➤学生の評価

- ・オリエンテーション 多くの学生が「実習に役に立った」と回答
- ・実習要綱、要領 多くの学生が「実習に活用できた」と回答
- ・指導、助言 100%の学生が「得られた」と回答
- ・実習方法、内容 100%の学生が「理解できた」と回答
- ・実習まとめ 多くの学生が「健康に生きるための支援について学べた」と回答

➤改善点

・オリエンテーション

学生が現地で困らないよう何度も説明したり、実習要領の記載工夫を検討する。

・実習時間

半日では時間が足りず、学生の思考の整理が難しかったので、1日実習できるよう交渉していく。

・実習まとめ

カンファレンス等では多くの学びの発言があつたにもかかわらず、まとまりのない発表であった。
まとめに活用できるように、日々のカンファレンステーマを絞る、プレゼン力が身につけられる

ような体験を増やすなどの支援が必要である。

➤総括

- ・領域に分けて担当教員を決めてから、全員で実習作りに取り組むことができた。
- ・領域別の要項を作成したことで、実習のイメージが伝わりやすくなった。
- ・各施設の専門職は信念をもって利用者に対応しており、それが健康支援そのものの取り組みであるということが、学生にもよく伝わったことがわかった。
- ・学生は、地域で生活する人々の暮らしや、健康を守っていくことの重要性について理解できる実習となった。

<質疑応答・意見交換>

(委員) 人数調整も含めて大変な実習であったと思う。一番大事なのはまとめであり、いろんな場を知ることで学びは多いが、どのようにまとめるかが課題となってくる。学びを狙いや目標に戻す必要がある。学生に自分の学びを発表させ、共有の場で「ヘルスプロモーションにおける看護師の役割とは何か」についてまとめてもらい、みんなで共通の考察すべき中身を提示して発表してもらってはどうか。

(委員) 概論にてヘルスプロモーションを学び、実習にて実際はどのように展開されているかを結び付けられるので、学生にとってわかりやすいのではないか。対象は、学校・企業⇄健診の保健師の活動に絞った方が、わかりやすく教員負担が減るのではないか。

(委員) 全領域に行くことの面白さはあるが、煩雑さや実習受け入れの難しさといった問題が出てくると思う。場面ごとに切れる実習を学内でつなげ、まとめで学びを広げると面白いのかもしれない。

(学校) 来年度の実習受け入れはどうなるかわからない不安がある。対象を絞っても良い、ヘルスプロモーションをまとめの軸につなげれば良いという例をいただいたので参考にしたい。今回の実習では、学生が生き生きしており、グループごとで話し合う過程が多くまとまりがあった。実習によって、企業が学校に興味を持ってくれたり、地域の中で学校のことを知ってもらえてよかった。

(委員) 企業に対して健康教育授業（生活習慣病等）をしてみても面白いかもしれない。また、対象を限定させるのであれば、深い学びにつながると思う。

<総評>

(委員) 入学生確保が難しい現状の中、貴校は入学生確保が優秀である。それは、法人内施設での教育が受けられるメリットや卒業生の活躍があるからではないか。卒業生の進路状況（法人内施設に多くが就職している）からみて、卒業価値のある学校である。また、国家試験合格率2年連続100%は素晴らしい、3年目も100%を目指してほしい。国家試験合格率からも、きちんと学校教育されていることがわかる。

(委員) 国家試験全員合格は素晴らしい。ヘルスプロモーション実習は4日間という短期間にもかかわらず、学びの多い実習設定である。どこの病院も看護師不足であるが、法人内施設に看護学校があることで法人内施設に貢献している。入学生不足が現状の中、きちんと入学生を確保されており、教員が真面目に教育に取り組んでいるのがわかる。 以上